

日本株投資戦略8月号

- 第1四半期の決算時期が到来 -

令和3年8月2日

アイザワ証券 市場情報部

2021年8月2日発行／審査番号：210802-B1

LINE公式アカウント
はじめました！

ベトナムを中心としたアジア情報
をお届けします。

[友だち追加はこちらから！](#)

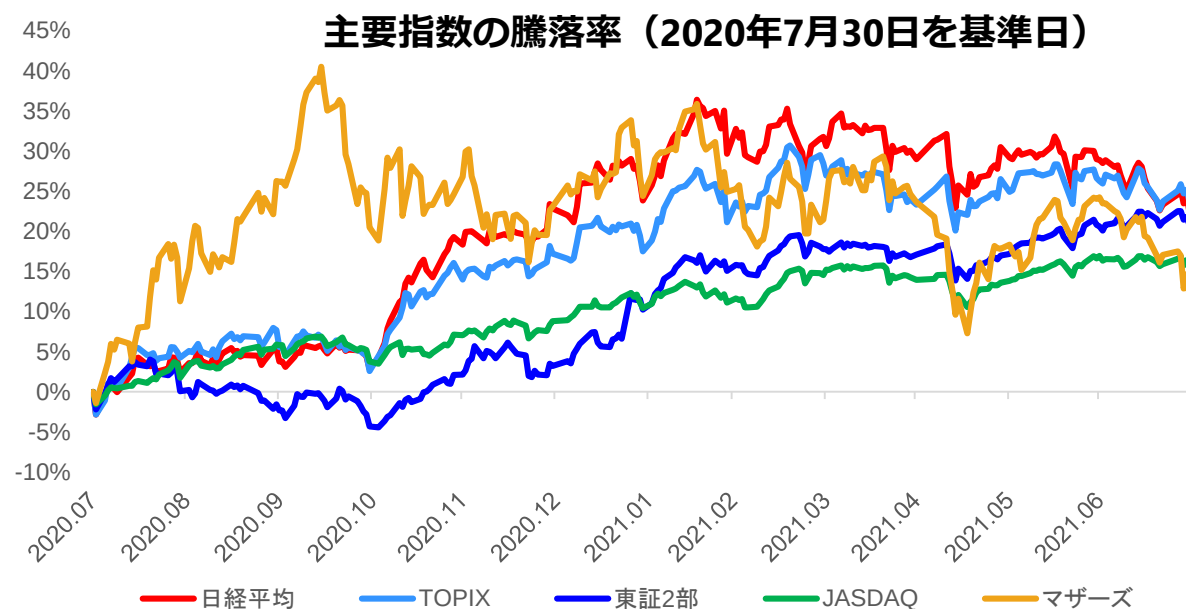


ID : @aizawa

- ・ 7月の株式市場
- ・ 8月の主なイベント
- ・ 7月の主要指数の月間騰落率
- ・ 日経平均と投資主体別売買高
- ・ 日経平均予想PERとドル円相場
- ・ 日経平均の夏場の傾向
- ・ 東証プライム誕生
- ・ 今月のストラテジー
- ・ 今月の銘柄
 - ・ デンソー
 - ・ 太陽誘電
 - ・ 日立製作所
 - ・ TOWA
 - ・ 新光電気工業
 - ・ みずほフィナンシャル・グループ
 - ・ SOMPOホールディングス
 - ・ 住友不動産

マーケット情報

	価格	移動平均線乖離率(%)		騰落率(%)			円、ポイント	
		25日	200日	1ヵ月	3ヵ月	1年	年初来高値	年初来安値
日経平均	27,283	▼3.5	▼1.9	▼5.2	▼5.3	22.1	30,467	27,055
TOPIX	1,901	▼1.8	2.2	▼2.1	0.1	23.4	2,012	1,791
東証2部	7,678	▼0.5	7.8	0.0	3.0	20.6	7,798	6,590
JASDAQ	3,953	▼0.5	3.5	▼1.1	1.4	15.6	3,957	3,723
マザーズ	1,085	▼6.8	▼9.9	▼10.1	▼9.6	11.6	1,320	1,042



出所: Quick、アイザワ証券作成

◆7月の東京市場では、日経平均の月間パフォーマンスは前月末比▼5.2%と大きく下げ、終値は200日移動平均線を▼1.9%下回る水準で終えた。TOPIXの月間騰落率は▼2.1%に留まり、TOPIXは200日移動平均線を+2.2%上回る水準で終えた。7月はマザーズが月間で▼10.1%と大きく下げた。概してインターネット関連株にとって厳しい月であったといえる。一方で、東証2部は堅調に推移しており、7月27日に年初来高値を更新した。

◆1年前となる昨年7月30日を基準に騰落率をチャートで示すと、昨年末に日経平均、TOPIXは大きく上げたが、今年に入ってからとはともに軟調なことがわかる。マザーズは昨年の秋口に大きく上昇した反動から1年近い調整が続いている。東証2部とJASDAQは昨年は物色の対象外であった感じがかったが、ここにきてじりじりと上昇している。

8月の主なイベント

3

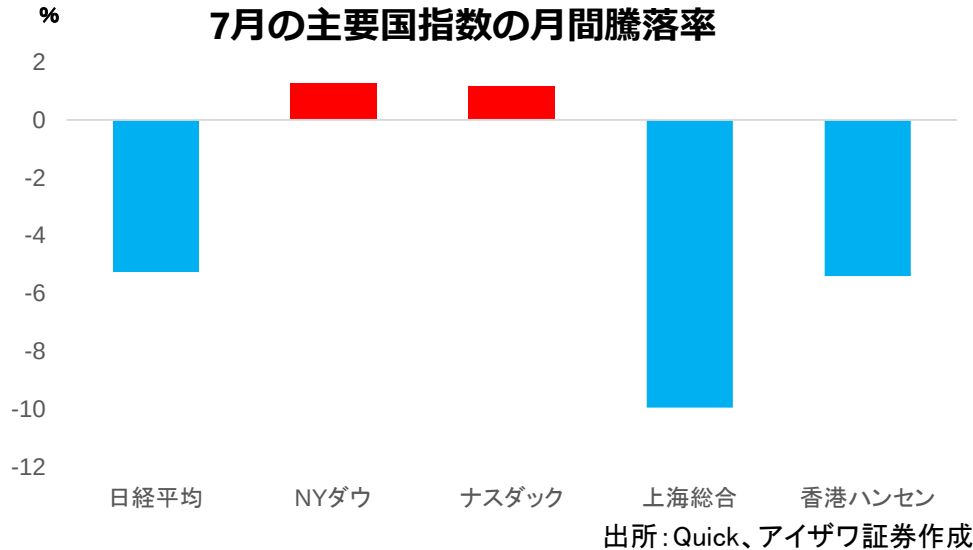
		日本	海外
2日	月	新車販売台数	米ISM製造業景気指数
3日	火	マネタリーベース	米製造業受注
4日	水		米ADP全米雇用リポート、米ISM非製造業指数
5日	木		米新規失業保険申請件数、米貿易収支
6日	金		米雇用統計
9日	月		中国消費者物価指数
10日	火	経常収支	OECD景気先行指数
11日	水	マネーストック、工作機械受注	米消費者物価指数(CPI)
12日	木		米財政収支、ユーロ圏鉱工業生産指数、米生産者物価指数(PPI)
13日	金		
16日	月	国内GDP、鉱工業生産指数	米ニューヨーク連銀景気指数、中国固定資産投資
17日	火		ユーロ圏GDP、米小売売上高、米鉱工業生産指数、米企業在庫・売上高
18日	水	機械受注、機械受注・四半期見通し、貿易収支	ユーロ圏消費者物価指数、米住宅着工件数
19日	木		ユーロ圏経常収支、米フィラデルフィア連銀景気指数
20日	金		
23日	月		米新築住宅販売
24日	火		米耐久財受注
25日	水		米GDP、米新規失業保険申請件数
26日	木		
27日	金	貿易収支	米個人消費支出・個人所得
30日	月		
31日	火	有効求人倍率、完全失業率、鉱工業生産指数	中国国家统计局製造業PMI、米ケース・シラー住宅価格指数、米消費者信頼感指数

出所：7月20日現在、Quickよりアイザワ証券作成、予定は変更の可能性もあります

- ◆ 国内：2日に7月の新車販売台数、3日に7月のマネタリーベース、11日に7月のマネーストック、31日に有効求人倍率が公表される予定。
- ◆ 海外：6日に米国の雇用統計、27日に米国の個人消費支出、個人所得、31日に中国国家统计局製造業PMIが公表予定。

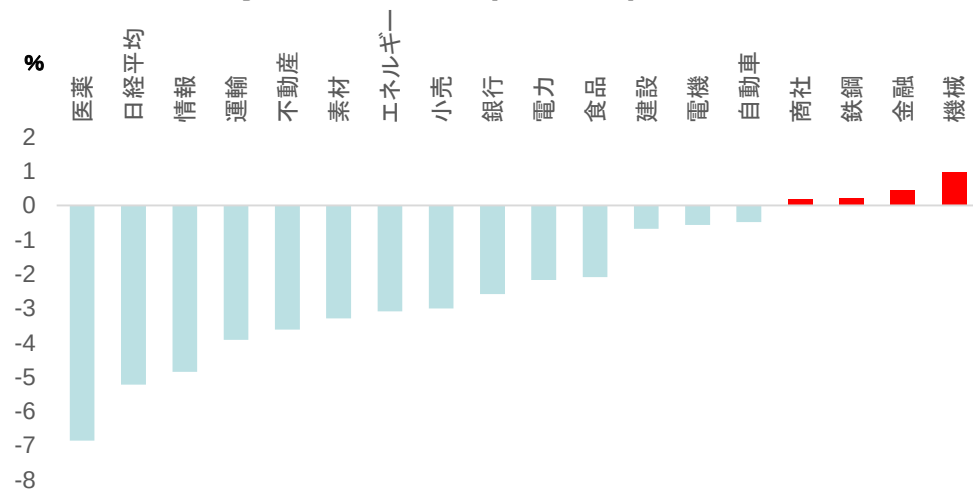
主要指数の騰落率

7月の主要国指数の月間騰落率



- ◆ 米国が強くアジアが弱い: 7月の主要国の株価指数は、ワクチンの普及によって経済が新型コロナからの回復入りすることが期待される米国が独り勝ちの状態となり、NYダウは一時3万5000ドルの大台を超えた。NYダウ、ナスダックとも7月26日には過去最高値を更新している。株価が振るわなかったのがアジアの株価指数となるが、アジアにおける新型コロナの変異種の拡散懸念、中国における企業に対する当局の締め付け懸念などが台頭したことによって、低調なパフォーマンスとなった。

東京市場 7月の業種別月間騰落率

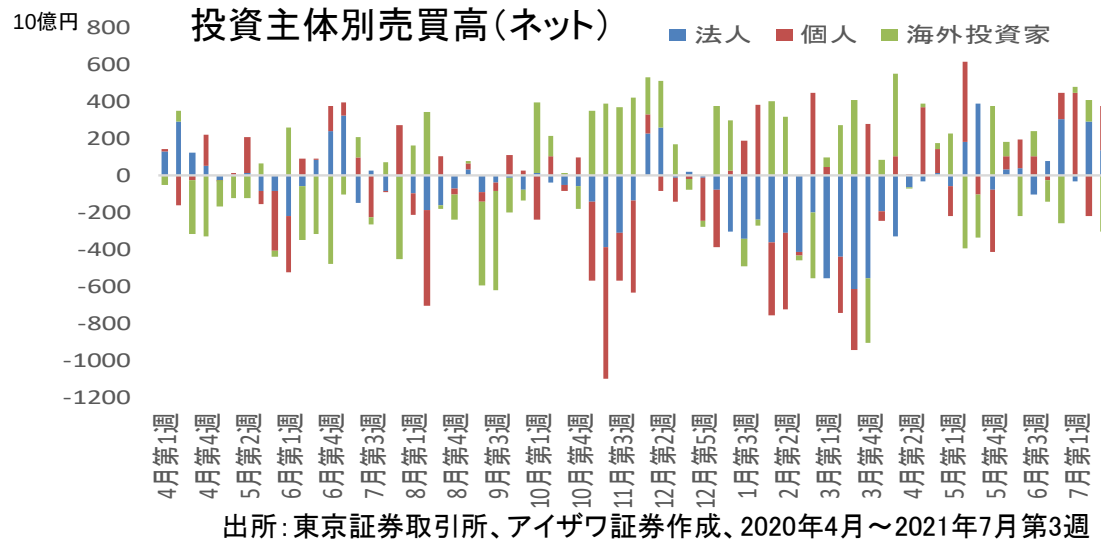


- ◆ 機械が業種別上昇率のトップ: 7月の業種別月間騰落率では17業種中、4業種のみが上昇した。先月は上昇率のトップであった医薬品の下落率が最も大きかった。新型アルツハイマー薬に対する厳しい見方が伝わったエーザイ、新薬の開発中止による減損の計上で通期の純利益見通しを下方修正したアステラスが売られた。

日経平均と投資主体別売買高

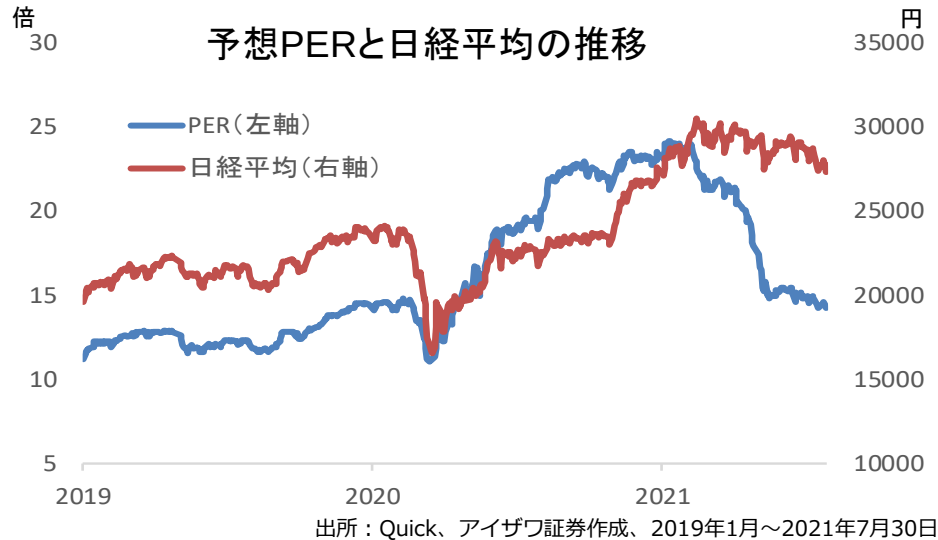


◆ 200日移動平均線を割り込む：ここ数ヵ月の日経平均は小動きとなる冴えない展開が続いていたが、7月にはとうとう約1年ぶりに日経平均は200日移動平均線を下回った。8月は夏枯れ相場といわれるように株価は軟調に推移する傾向にある。このため、需給が悪くなる懸念が強く、株式市場としてはマイナス材料といえようが、足元の好調な企業業績が株価を下支えするであろうとみている。8月の日経平均は、200日移動平均線を挟んだ展開を想定している。

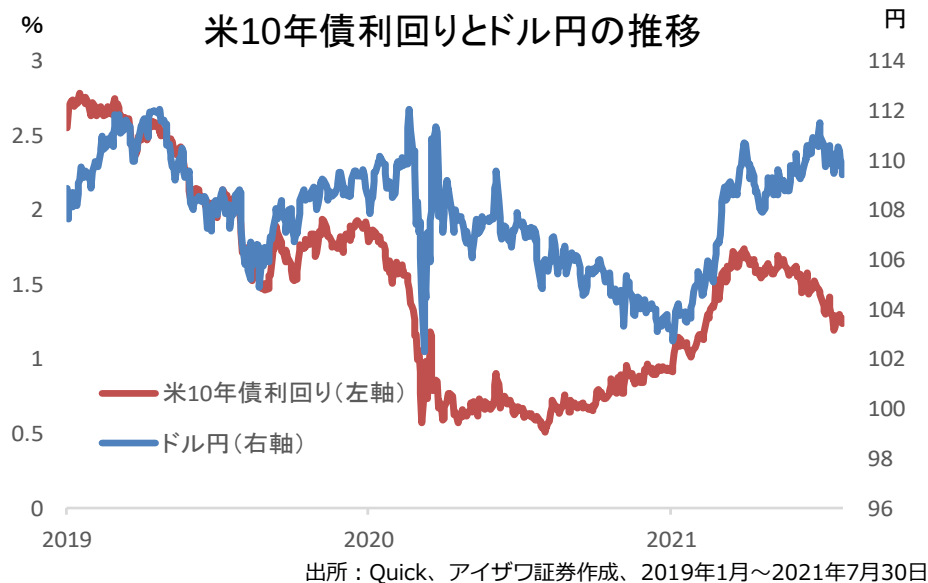


◆ 方向感を欠く展開が続く：日経平均が調整局面を強めたなかで、7月の投資主体別売買動向は方向感を欠いた展開であった。週間の売買動向は、個人、海外投資家ともに買い越しと売り越しが交互となっていたが、第3週は海外投資家の売り越しが目立った。

日経平均のPER推移とドル円相場

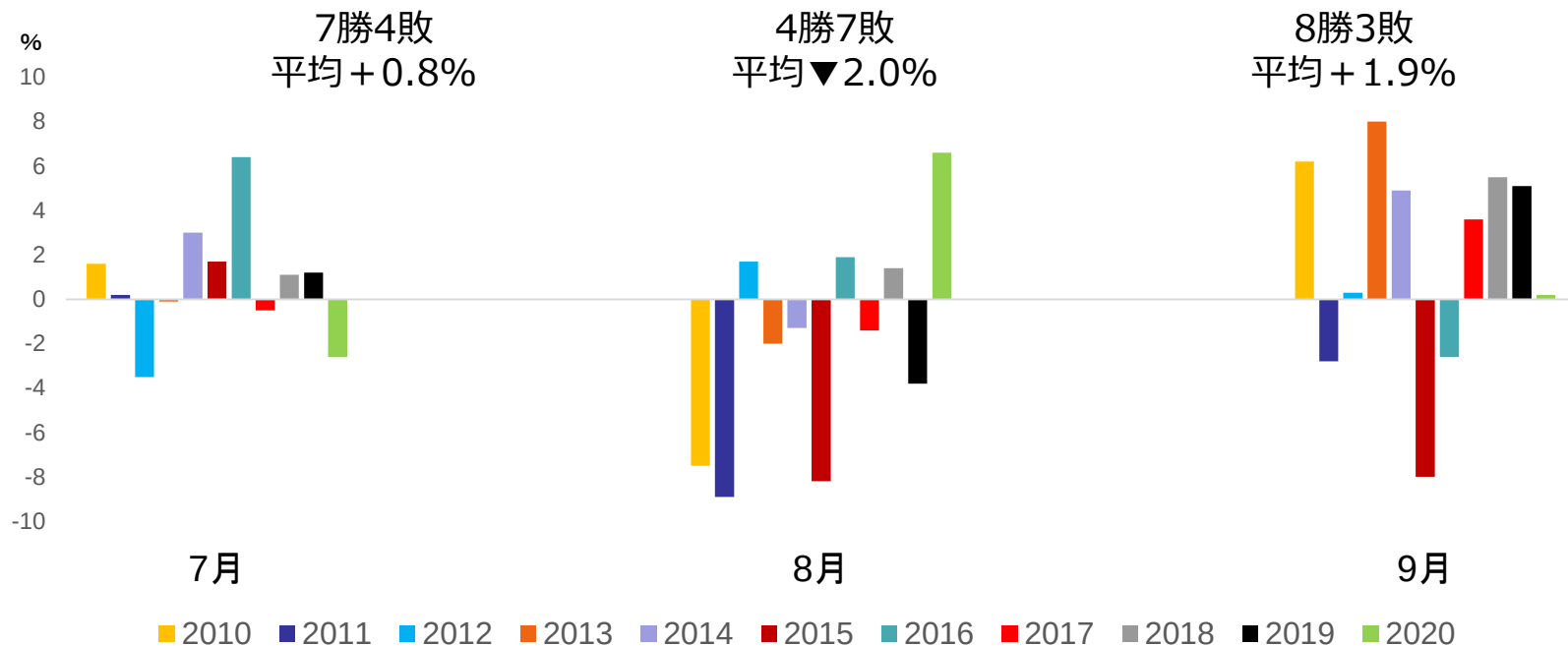


- ◆ 低バリュエーションが続く：7月末の日経平均の予想PERは13倍台にまで低下、予想配当利回りは1.9%と6月末よりも一段とバリュエーションは低下した。輸出企業を中心に企業の21年4-6月の決算は好調が予想されるものの、コロナ再拡大の懸念や中国リスクが株価を押し下げている。ワクチンの普及によって、コロナ拡大の懸念が後退するようならばバリュエーションに見直しが入ることに期待したい。



- ◆ 米10年債利回りは春先を直近ピークに低下傾向となっている。一方で、為替相場では、1ドル110円を挟んだ小動きの展開が続いている。米10年債利回りの低下を一時的なものであるか否かをどう捉えるのか意見が分かれるであろうが、先進国において、米国の経済が唯一好調に推移している現状を考えると中期的には米10年債利回りは再度の上昇トレンドとなり、ドル円相場は円安の動きを強めるであろうとみている。

日経平均7、8、9月の月間騰落率



出所: Quickよりアイザワ証券作成

- ◆ 8月は「夏枯れ相場」とも言われるが、日経平均の過去11年間の7月、8月、9月の月間パフォーマンスをみると、8月は4勝7敗と負け越しており、データからも8月の夏枯れ相場は裏付けられる。一方で、9月は過去11年間で8勝3敗と勝ち越している。8月は9月に向けた仕込み場といえよう。

プライム移行スケジュール

21年 6月30日 移行基準日
 7月中 東証より新市場区分の判定通知
 9～12月 上場企業が新市場区分を選択し申請

22年 1月 上場企業が新たに所属する市場
 区分を公表
 4月4日 一斉移行日

プライム	新規上場(上場時見込み)	上場維持	経過措置
株主数	800人以上	800人以上 (改善期間1年)	800人以上 (改善期間1年)
流通株式数	20,000単位以上	20,000単位以上 (改善期間1年)	10,000単位以上 (改善期間1年)
流通株式時価総額	100億円以上	100億円以上 (改善期間1年)	10億円以上 (改善期間1年)
時価総額	250億円以上 (改善期間1年)	－	－
売買代金・売買高	－	1日平均売買代金 0.2億円以上 (改善期間1年)	月平均売買高 40単位以上 (改善期間6か月)
流通株式比率	35%以上	35%以上 (改善期間1年)	5%以上 (改善期間なし)
経営成績 ※AまたはBを満たす	A. 最近2年間の経常利益 合計25億円以上 B. 売上高100億円かつ 時価総額1,000億円以上	－	－
財務状態	純資産: 50億円以上	純資産: 正	－

出所: Quickよりアイザワ証券作成

- ◆ 2022年4月に東証の市場区分が再編となる。現在は東証1部、東証2部、ジャスダック、マザーズとされている市場区分が、新しくプライム、スタンダード、グロースとなる。市場再編の目的はより優れた銘柄群の市場を創設することであることから、プライム市場への上場基準は東証1部よりも厳しくなる。このため、東証1部銘柄のうち約3割はプライムの基準を満たさないとされている。プライムの基準を満たさない銘柄には改善のための報告書を提出することによって猶予期間が与えられる。

プライム市場から除外候補銘柄リスト

東証1部の銘柄でプライム市場から除外される候補銘柄

フェイスNW エステルHD 巴川紙 中 広 シーグイエス 一 蔵 ポブラ クラウドIAH アトラG オンリー 東天紅 阿波製紙 ハウスイ 東海染 ツナグGHD ブラス エストラスト 小林洋行 シンシア 秀 英 APHD クハテック 田 谷 テモナ デザインワン 光村印 アゴーラHG ダイキュー タジジェ トルク 中発条 一家ダイニ 進学会HD アイドMHC トップカルチャ 日ギア ナイガイ サイネックス サンヨーH MSコンサル	マーケットエンタ 東 名 明治海 ビーバン 井筒屋 洋 シャタ エナックHD 盟和産 インターワークス キャンティル エトレディン 兼松サステク ホクシン ODK グローバル社 TAC クロップス 植木組 ホルテージ 協栄産 ゴロHD ソネット フェイク ミサワ 鑄鉄管 粧美堂 ハイパー グローバル 虹 技 共栄タ 北沢産 東京一番 丸 運 ムラシステム アドバネクス 神 栄 キムラタ きちりHD マルシェ エンカレッジ	テノ タカキタ 高周波 ホクリヨウ ファーマライズ 林兼産 アイビシー ペネフィットJ 丸紅リース OKK ダイトウホウ アグレ都市 ファーストロジ ヴィッツ 神東塗 オーイズミ ハークスレイ はせがわ 愛 眼 東都水 グローキッス 光世証 ツカモト 第一パン コーセーアール 星和電 東海運 ダイニク エスクリ サンリツ 津田駒 クワザワHD BBT サハリスHD 白洋舎 リブセンス 京都友禅 ジャパンF 日東網 エックスネット	高田機 ファルテック A & AM あん保証 サッパラス S・サイエンス ジョーケス anfac 丸紅リース OKK ダイトウホウ アグレ都市 日ケミファ ウチヤマHD IFIS エンシュウ マシナヘルケ 船 場 共立印刷 有機薬 TYK ダイバリス イーグランド ワイヤレスG トーア紡 GMB エプコ 島根銀行 ワカモ ティーライフ 土木管理 ショエイコホ インテリックス 東海フツ 三谷産 DLE オーバル イチカワ 北 恵 エスケイ	東洋糖 CDG ティアック MUTOH-HD 芦森工 ダイコー通 田中商事 邦アセチレン PLANT インプレス GSIクレオス Fフラサース 日本エンタ シンニッタン 三洋工 ケイヒン ウイルプラスH ダントーHD サイバリンクス アルテック SMN ハ ブ フルテック 駒井ハルテク 黒 谷 沢藤電 太平発 リズム 片倉コープ ランビジネス ジュテックH ヤマトインタ ナカゴ 双信電 アルナー トーセ 福島銀 富士P・S AGS 石塚硝	グリーンズ チタンエ JNS GameWith 東京機 アジア投資 システムインテ CAP 三機S 日シス技術 アイケイ ハウスコム シンクワード ビーロート 大東銀 一正蒲 ツガダGHD エスライ 日金属 塩水糖 カワタ 日石輪 キング ジーフット 電 算 ヒマラヤ 毎コムネット OATアグリ Link-U マネバG オリジン タカノ 高知銀行 イライト ミクニ 油研工 ユニカフ ランドコビ 東陽倉 レップHD ニチモウ	ピアラ ソト 力の源HD アジュバン ナカノド 藤 久 宇 徳 中山鋼 巴コーポ キャリアDC ビエトロ サツドラHD 富山銀 高 島 鳥取銀 日産東HD サクサ 住石HD 九州リース JTECCORP DDHD タイガホリ 池上通 ダイオース キャリアインデ グリアHD 昭文社HD ネットマー マネバG オリジン タカノ 高知銀行 イライト ミクニ 大 光 マイネット コンカー 新家工 佐田建 CEHD	インタラ エスクロ-AJ ウェーブロック ADワークスG トマト銀 サインポスト バスコ 東特線 クロスマーケG サニーサイド 石井鉄 DVX 不二電機 ティア キムラユニティ やまみ サセレンデ テンアラト 名村造 ヒラシステム 丸山製 チムニー モリテック ダイキアクス シーアールイー 三晃金 OKAYA 日フェルト 大 冷 鳥越粉 岩崎通 永大産業 テンボイバ 日亜鋼 KIMOTO トレファク ルックHD 日理化 ダイセイキリ ヤマザワ	ニッパゼラチン コナカ 日本ドライ FIG 大光銀 モバファク MORESCO サイバコム ジェイリス ハードオフ ヘルパステクノ OlympicG 中山福 日基礎 蔵王産業 日フイルコン 酒井重 Casa 北野建 高千穂交 洋エンジ 丸山製 チムニー モリテック サンネクスAG スマートパリュ スターティアHD 滝澤鉄 クリエト 富士興 岩崎シース 日本BS放 オルバヘルケ 大末建 東邦システム OCHI-HD UMCEL アツギ 三城HD 日本アクア ワッツ アルファCo フォーバル TBK	セグエ 前澤給 クロスキャット ミヨシ ムゲンエステ 大同工 東亜DKK 尾家産業 ソーダニカ 日山村硝 T&Gニース はるやま システムソフ WOWWORLD 前沢工 本多通信 石川製 三陽商 日ビストン ダイコウ電 ヨシックスHD 明和地所 ナック オカダアイオン スプリックス リニカル 穴吹興産 日本トリム アイモバイル ウツワ ひらまつ 中越ハル デリカフーズ ウェルネット ナイス リックス エンビプロH ワイエイシHD ラサ商事 ファーストコホ バロックス	アイオデータ チノー ビーグリー 東洋電 イトレド 東亜DKK 尾家産業 ソーダニカ 日山村硝 T&Gニース はるやま システムソフ WOWWORLD 前沢工 本多通信 石川製 三陽商 日ビストン ダイコウ電 ヨシックスHD 明和地所 ナック オカダアイオン スプリックス リニカル 穴吹興産 日本トリム アイモバイル ウツワ ひらまつ 中越ハル デリカフーズ ウェルネット ナイス リックス エンビプロH ワイエイシHD ラサ商事 ファーストコホ バロックス	やまや カーバイト ベステラ 東 リ 銭高組 ハイマックス イチケン 三菱紙 いであ 東洋機械 ニイタカ 今仙電機 サンデンHD 日プラスト 戸田工 JALUX テアトル ハリマ化成G 幼ショ ビーエンジ ペッパー 早稲アカ 安 永 佐鳥電機 南 陽 常磐興 フェイスHD じもとHD アグロネシ 竹本容器 丸善CHI 焼津水 かどや ダイチエ キュー流通 トーエル ヤマト D I オオバ 日特塗	富士ダイス パラカ イーブック ファースト住 朝日放送 ライトオン アクセル セック リソル モリ工業 LTS ホックナHD AIT インテリW 中外炉 リアジョブ モーゲージS 東京産 串カツ田中 千葉興 OUG HD アールスティ イージェイHD 大研医器 パンチ 広済堂 ミライル 帝通工 岩崎電 ブライント アビスト エフテック システムサホ 豊和サ 学究社 ギフト 日水薬 ブックオフGH 加藤製 信 和	日コンセプト スハル興 PCIHD 菱製鋼 安田倉庫 富山第一 三光合成 北日銀 星光PMC シモジマ 渋沢倉 トメントバ アイ・ケイ・ケイ 乾汽船 小津産業 CKサンエツ ベガサス シキボウ 中本ハクス IMAGICAG エノモ 原田工業 大 庄 サニックス 佐藤商 サカイオーベ 中京銀 藤倉化 BPカストロール 日ヒューム ナカバヤシ 日東富士 河西工 グランディ 中央倉 清水銀 ユシロ化 エアテック ヤマタネ	明和産 フコク テクノスJPN 松井建 コロナ スズデン 新京成 千趣会 モリト サコール 橋本総HD たけびし 群衆化 サックスハー フォーカスS JKHD ヤマウラ ケーユーHD Wismetac 正興電機 フィールズ テクノメディア オハラ 椿本興 筑波銀行 アセンテック ジェコス エムティーアイ ハウストウ SMK
---	---	---	---	--	---	---	--	---	---	---	--	--	---	---

出所: Quickのデータよりアイザワ証券作成、2021年7月29日時点の候補リストのために今後の展開などにより実際と異なる可能性があります。

7月の相場→好決算期待が高まるもコロナ変異種や中国リスクが台頭

✓7月は大きなイベントとして企業の4-6月期の決算発表があるが、製造業を中心に好調な企業業績が見込まれるなか、既に発表された主力銘柄の決算は好調が目立つ。ここに1ドル110円近い円安が加わり、これらを織り込み日経平均は上値を試す展開が期待されたが、蓋をあけたら、好決算の銘柄も株価の下落が見られ、日経平均は遂におよそ1年ぶりとなる200日移動平均線を割り込むなど、多くの投資家を失望させる内容であった。

✓この背景には新型コロナ変異種の台頭がある。これによって、月初めに描いていた7月にワクチンの接種が進み、年後半には景気が回復するといったシナリオが崩壊した。足元ではコロナの再拡大により、一転して景気の減速不安が台頭している。そう考えれば、今の軟調な相場もいたしかたないだろう。加え、中国では当局による企業への介入リスクが台頭しており、日本企業にとっても対岸の火事ではない。代表的な例では、中国のIT企業に投資するソフトバンクグループは前期の決算では過去最高の決算を計上したものの、現在の株価は高値から3割以上下落して、日経平均の足枷となっている。ソフトバンクグループへの投資スタンスだが、先月号の今月のストラテジーでお伝えしたように、中国IT企業に対する政府当局の圧力が拭い去れないなか、当面の株価見通しには不透明感が強く、あえてここで仕込む必要はないだろう。ソフトバンクグループは8月10日に第1四半期の決算を控えており、そこで何かしらのアナウンスメントに期待したいところだ。

✓現在の相場は好調な21年4-6月期の決算とコロナによる再度の景気減速という、2つの材料が綱引きの状態だが、景気敏感株の日本株はいち早くマイナス材料が織り込まれ、地合いは悪い。8月も夏枯れ相場の季節要因が強いことを考えると、本格的な株価の回復期待は9月以降といえよう。現実問題として、足元の地合いの弱さを警戒しなくてはならず、日経平均の下値目途については3万円基準にマイナス10%の2万7000円とみていたが、オーバーシュートの2万7000円を一時的に割り込む可能性もあろう。ただし、2万7000円は下値抵抗線とみており、よほど景気が落ち込まない限り、更なる下値の模索となる可能性は低いとみている。

✓今後については足元の堅調な決算、そして景気回復が単に後連れしただけであると考え、年末に向けて日経平均は上値を試す展開に期待したい。9月の日経平均は8月と打って変わり、過去11年では8勝3敗と勝ち越しており、8月は9月に向けた仕込み場となろう。

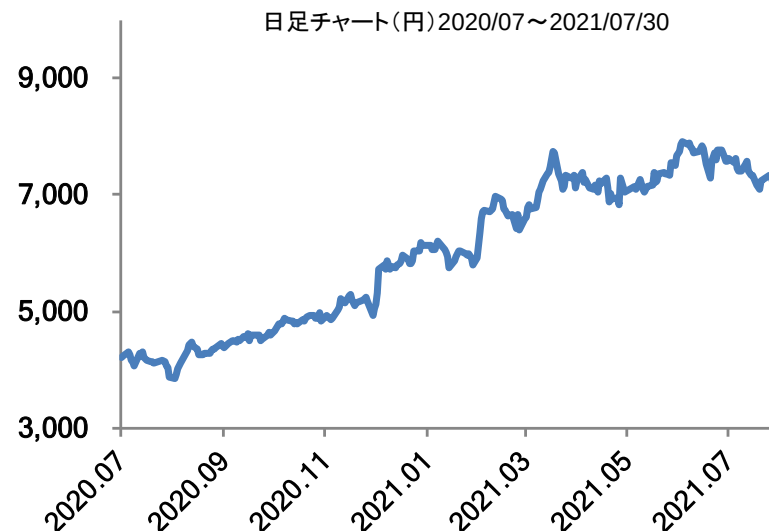
✓今月の投資アイデアとしては、21年4-6月期の決算が好調で、来期以降も成長ドライバーがみられる企業の押し目買いで対応したい。

今月の注目銘柄

- ・デンソー
- ・太陽誘電
- ・日立製作所
- ・TOWA
- ・新光電気工業
- ・みずほフィナンシャル・グループ
- ・SOMPOホールディングス
- ・住友不動産

株価:(2021/07/30)	7,482円
52週高値:(2021/06/07)	7,970円
52週安値:(2020/08/03)	3,786円
予想PER	17.2倍
PBR	1.49倍
予想配当利回り	1.87%
時価総額	58,954億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK



- ◆ トヨタグループの自動車部品会社。自動車部品業界では、売上規模で世界No.2の規模を誇る。自動車に搭載されるエアコンや電子部品などを得意としており、トヨタの自動運転、ハイブリッド、電気自動車戦略ではキープレイヤーの1社である。
- ◆ 第1四半期（21年4-6月）の売上高は、前年同期比+77.3%の1兆3568億円、営業利益が1071億円（前年同期は▼1066億円の赤字）。通期の会社予想については、従来予想に対して売上高+800億円、営業利益+270億円の上方修正を発表。（横山 泰史）

■業績推移	売上高		営業利益		税前利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	51,534	▼3.9%	610	▼80.7%	896	▼74.8%	680	▼73.2%	87.8	140.0
2021/03 実績	49,367	▼4.2%	1,551	153.9%	1,937	116.2%	1,250	83.6%	161.3	140.0
2022/03 予	55,400	12.2%	4,400	183.7%	4,810	148.3%	3,360	168.7%	433.3	140.0

国際基準 (単位: 億円、予: 会社予想 EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2021/07/30)	5,590円
52週高値:(2021/01/29)	6,370円
52週安値:(2020/8/28)	2,836円
予想PER	23.3倍
PBR	2.88倍
予想配当利回り	1.07%
時価総額	7,279億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK



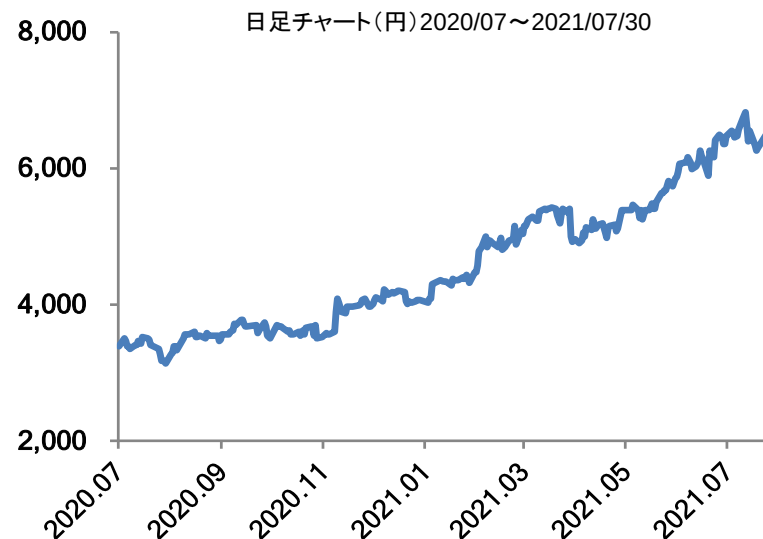
- ◆ 積層コンデンサを中心に事業を展開する電子部品会社。ハイエンドな積層コンデンサは太陽誘電、村田製作所、TDKといった日系メーカーしか製造できないと言われ、太陽誘電はハイエンド積層コンデンサに特化している。
- ◆ 積層コンデンサの需要に最も大きな影響を与えるものがスマホの生産台数である。今年の秋に販売が予定されている新iPhoneは高い販売台数が期待されている。（横山 泰史）

■業績推移	売上高		営業利益		経常利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	2,823	2.9%	371	5.5%	351	2.4%	180	▼23.9%	143.0	26.0
2021/03 実績	3,009	6.6%	407	9.7%	412	17.3%	286	58.8%	227.9	40.0
2022/03 予	3,280	9.0%	470	15.3%	450	9.1%	300	4.8%	239.0	60.0

日本会計基準(単位:億円、予:会社予想) EPS、配当1株当たり アイザワ証券作成

株価:(2021/07/30)	6,258円
52週高値:(2021/07/13)	6,853円
52週安値:(2020/07/31)	3,122円
予想PER	11.0倍
PBR	1.71倍
予想配当利回り	1.67%
時価総額	60,592億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK



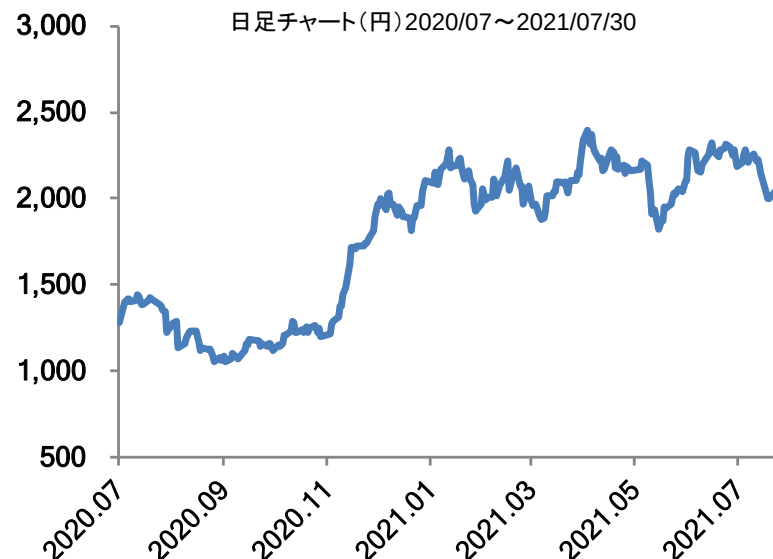
- 第1四半期の決算は、市況の回復やパワーグリッド事業の買収効果、日立Astemoの統合効果によって、売上高は前年同期比+48.5%の2兆3674億円、調整後営業利益は同+123.5%の1304億円であった。
- 昨年を買収した日立ABBパワーグッド事業、7月に買収が完了したGlobalLogicなど今後の業績の牽引役がみられる点に注目したい。(横山 泰史)

■業績推移	売上高		調整後営業利益		継続事業税前利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	87,673	▼7.5%	6,619	▼12.3%	1,803	▼65.1%	876	▼60.6%	90.7	95.0
2021/03 実績	87,291	▼0.4%	4,951	▼25.2%	8,444	368.4%	5,016	472.6%	519.2	105.0
2022/03 予	95,000	8.8%	7,400	49.4%	8,000	▼5.3%	5,500	9.6%	569.1	—

国際基準(単位:億円、予:会社予想 EPS、配当1株当たり、2018年10月1日付けで5株を1株に株式併合を実施、遡及修正済) アイザワ証券作成

株価:(2021/07/30)	2,388円
52週高値:(2021/04/05)	2,439円
52週安値:(2020/09/04)	1,031円
予想PER	9.4倍
PBR	1.91倍
予想配当利回り	0.96%
時価総額	597億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK



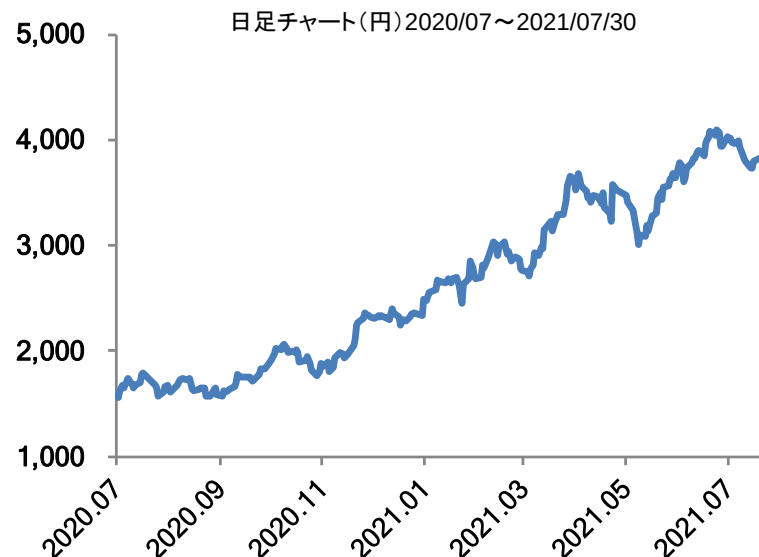
- 7月29日の引け後に2022.3期の通期予想の修正を発表。修正額は従来予想に対して、売上高+80億円(380億円→460億円)、営業利益+41億円(50億円→91億円)である。
- 半導体の製造工程にて使用されるモールドディング装置で世界シェアNo.1。米中半導体摩擦の影響によって、中国が半導体の国産化比率を高めるべく半導体生産設備への投資を積極化させていることから昨年秋以降の受注は高水準で推移している。(横山 泰史)

■業績推移	売上高	営業利益	経常利益	純利益	EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	253 ▼10.7%	8 ▼13.3%	6 ▼31.1%	4 ▼58.0%	14.8	16.0
2021/03 実績	297 17.6%	36 345.6%	38 490.2%	26 622.1%	106.4	16.0
2022/03 予	460 54.9%	91 151.5%	91 138.3%	63 138.4%	253.9	23.0

日本会計基準(単位:億円、予:会社予想 EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2021/07/30)	3,700円
52週高値:(2021/06/30)	4,145円
52週安値:(2020/09/07)	1,546円
予想PER	18.5倍
PBR	3.10倍
予想配当利回り	0.94%
時価総額	5,001億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK



- 第1四半期（21年4-6月）の売上高はフリップチップタイプパッケージの需要が収益性の高いサーバ向けに好調であったことから前年同期比+36.9%の580億円、営業利益が3.7倍の139億円であった。
- 会社側は2022.3期の通期予想について上方修正を発表。修正額は、売上高が+147億円、営業利益が+72億円である。（横山 泰史）

■業績推移	売上高		営業利益		経常利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	1,483	4.3%	32	▼33.4%	48	▼37.1%	26	6.5%	19.9	25.0
2021/03 実績	1,880	26.8%	233	622.7%	265	450.7%	180	569.7%	133.3	30.0
2022/03 予	2,420	28.7%	406	74.0%	395	49.0%	269	49.3%	199.1	35.0

日本会計基準(単位:億円、予:会社予想 EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2021/07/30)	1,565.5円
52週高値:(2021/03/19)	1,732.5円
52週安値:(2020/10/29)	1,256円
予想PER	7.7倍
PBR	0.42倍
予想配当利回り	4.79%
時価総額	39,751億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK



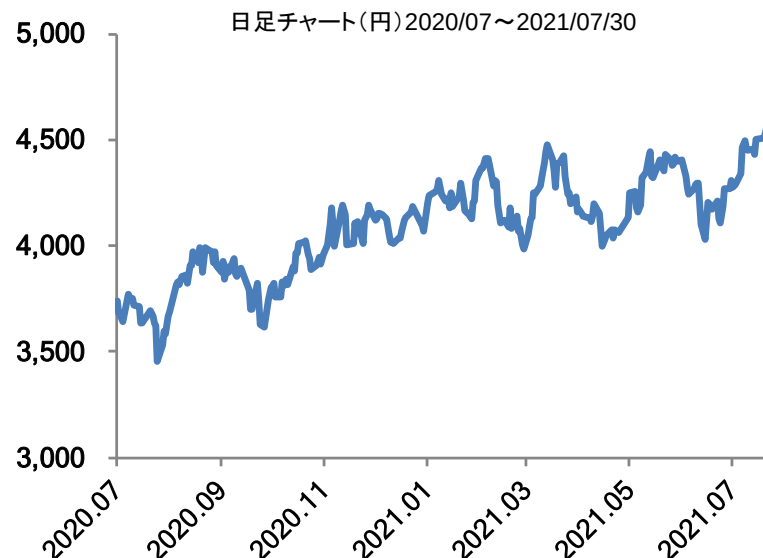
- ◆ 銀行大手（メガバンク）の一角、銀行、信託、証券などに事業展開、収益拡大策とともに構造改革を実行、人員や拠点の削減などによる効率化を推進。
- ◆ 2021年3月期の実績は、減収・経常減益ながら、特別利益を計上。2022年3月期の会社予想は、増益を想定。銀行規制上の自己資本比率は目標到達、株主還元方針を上方修正（配当性向30→40%、機動的な自己株取得を追加）。 （水口 活也）

■業績推移	経常収益		経常利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	39,867	1.5%	6,378	3.8%	4,485	364.5%	176.8	75.0
2021/03 実績	32,180	▼19.2%	5,363	▼15.9%	4,710	5.0%	185.7	75.0
2022/03 予	—	—%	—	—%	5,100	8.2%	201.0	75.0

日本基準 (単位: 億円、予: 会社予想) EPS、配当1株当たり アイザワ証券作成

株価:(2021/07/30)	4,530円
52週高値:(2021/07/27)	4,589円
52週安値:(2020/07/31)	3,454円
予想PER	12.8倍
PBR	0.79倍
予想配当利回り	4.63%
時価総額	16,911億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK



- ◆ 国内損害保険大手の一角、自動車や火災など損害保険が主力だが、生命保険や海外保険、介護にも事業展開。災害影響を収益多様化とリスク分散で吸収。
- ◆ 2021年3月期の実績は、増収・増益、新型コロナ影響は、海外でマイナス、国内損保でプラス。2022年3月期の会社予想は、平準化によって減益を想定。新中期経営計画では、資本コスト想定7%を上回るROE10%が目標。 (水口 活也)

■業績推移	経常収益		経常利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	37,603	3.2%	1,924	▼3.3%	1,225	▼16.4%	334.1	150.0
2021/03 実績	38,463	2.3%	2,150	11.8%	1,424	16.3%	397.4	170.0
2022/03 予	—	—%	1,850	▼14.0%	1,250	▼12.3%	352.1	210.0

日本基準 (単位: 億円、予: 会社予想 EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2021/07/30)	3,552円
52週高値:(2021/06/16)	4,222円
52週安値:(2020/07/10)	2,578.5円
予想PER	11.2倍
PBR	1.12倍
予想配当利回り	1.26%
時価総額	16,910億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK



- ◆ 総合不動産大手の一角、オフィスビルなど不動産賃貸が主力、マンションなど不動産販売、リフォームなど完成工事、不動産流通その他に事業展開。
- ◆ 2021年3月期の実績は 減収・営業減益ながら、純利益は8期連続最高益更新。2022年3月期の会社予想は増収・増益、ホテル・イベントホールなど一部で新型コロナ影響も残るが、住宅関連は回復、主力のビル賃貸は堅調を想定。（水口 活也）

■業績推移	売上高		営業利益		経常利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	10,135	0.1%	2,343	6.8%	2,205	8.5%	1,409	8.4%	297.5	35.0
2021/03 実績	9,174	▼9.5%	2,192	▼6.4%	2,099	▼4.8%	1,413	0.3%	298.3	40.0
2022/03 予	9,200	0.3%	2,280	4.0%	2,210	5.3%	1,500	6.1%	316.5	45.0

日本基準 (単位: 億円、予: 会社予想 EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

金融商品取引法に基づく表示事項

■本資料をお客様にご提供する金融商品取引業者名等

商号等：藍澤証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第6号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会

当社が契約する特定第一種金融商品取引業務に係る指定紛争解決機関：

特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター（略称：FINMAC）

LINE公式アカウント
はじめました！

ベトナムを中心としたアジア情報
をお届けします。

[友だち追加はこちらから！](#)



ID：@aizawa

株式投資の主なリスク

株式は株価の変動等により、損失が生じるおそれがあります。お取引の際は、契約締結前交付書面をよくお読み下さい。

お客様にご負担いただく手数料等について

取引口座に応じて以下の委託手数料（税込）をいただきます。

対面口座：約定代金に対し、最大1.265%（最大149,875円、2,750円に満たない場合は2,750円）

インターネット口座「ブルートレード」：インターネット発注 最大1,650円

コールセンター発注 約定代金が55万円以下の場合は1,650円、約定代金が55万円超3,000万円以下の場合は3,300円

コンサルネット発注 約定代金に対し、最大1.265%（最大149,875円、2,750円に満たない場合は2,750円）

アイザワ証券 免責事項

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。

本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。

結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。

執筆担当者またはアイザワ証券と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。

このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。